■「効果の見える治水事業」

愛媛県　肱川の河川改修事業（西予市）

『肱川　広域基幹河川改修工事の進捗状況』

愛媛県南予地方局西予土木事務所長　長野（ながの）　政人（まさと）

■事業の概要

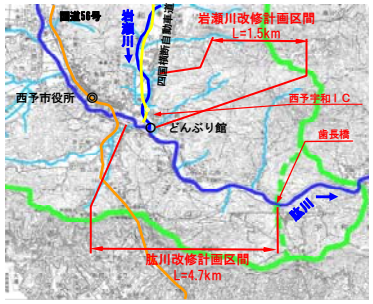
肱川は、西予市宇和町の鳥坂峠に源を発し、直轄管理の野村ダム、鹿野川ダムを経て、大洲盆地を貫流し伊予灘に注ぐ延長103kmの河川です。当土木事務所が管理する区域は、鹿野川ダムと野村ダムの間及び野村ダムより上流の区域です。

流域面積が約106㎢ある野村ダムより上流域の西予市宇和町では、昭和62年7月の梅雨前線豪雨及び台風5号により流域全体で388戸の浸水被害が発生しており、近年では平成8年7月に床下浸水16戸、平成11年8月に床下浸水36戸の被害が発生しています。

一般県道宇和三間線の歯長橋から支川の岩瀬川合流点までの区間は未改修又は片岸のみの築堤で流下能力が著しく不足していること、また岩瀬川では固定堰により流下能力が著しく低く、下流部には四国横断自動車道のインターチェンジや商業施設等が整備されるなど、早急な治水安全度の向上が必要となっています。

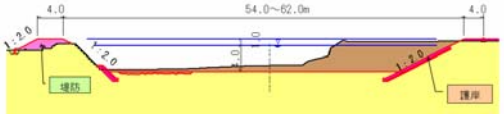
このため、県では、肱川は歯長橋から西川合流点までの約4．7km、支川の岩瀬川は合流点から1．5kmの区間までを、平成6年度から本事業により整備を進めております。しかし、浸水被害の発生する箇所は、計画区域の上流部に位置していることから、早期に上流に着手するべく、平成12年度から一定の流下能力を確保できるよう暫定断面での整備を進め、現時点で肱川の下流から約3kmの区間が暫定断面で整備できました。今後とも、流下能力が低い箇所について暫定断面で整備を行い、早期に、頻繁に浸水被害の発生している岩瀬川の改修に着手し、浸水被害の軽減を図るよう努めてまいります。

『位置図』



事業概要
- 施工位置　：　愛媛県西予市下川～明石
- 事業期間　：　H6～H48
- 計画延長　：　L＝6．2km
  （肱川L＝4．7km，岩瀬川L＝1．5km）
- 築堤工　：　V＝132，020㎥
- 道路橋架替：　N＝12橋

『肱川　標準横断面図』



『氾濫状況　肱川』

西予市皆田　肱川(S62.7)

『氾濫状況　岩瀬川』

西予市稲生　鬼窪堰　岩瀬川(H16．10)

『整備状況（肱川暫定断面）』

西予市下川　肱川(H19.10)

談　話　室

「肱川上流域（西予市宇和町）の河川改修について」

西予市長　三好（みよし）　幹二（かんじ）

西予市は、愛媛県の西部に位置し、県都松山市から南へ約60kmの距離にあります。西は豊後水道の宇和海から、東は高知県に続く標高約1400mの四国カルストまで東西に長く、起伏に富んだ地形を有し、気候も温暖な海岸部から山地部の寒冷地域と、市内に日本列島の縮図が織り込まれるほどの多様性を有しています。また、平成16年の合併に合わせるように四国横断自動車道（西予・宇和IC）が開通し、現在南予地域の中継地点を担っています。

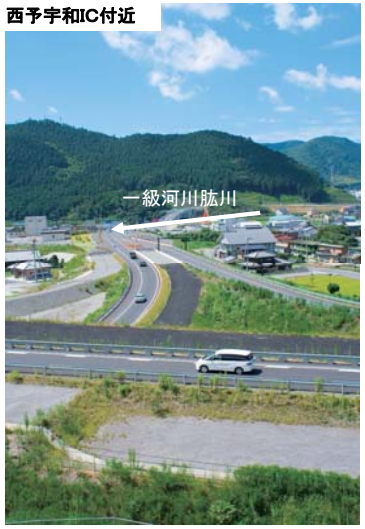
肱川は、西予市宇和町西部に源を発し、支川を合せながら市内を流下し、野村・鹿野川両ダムを経て大洲市長浜で伊予灘に注ぐ県下最大の河川です。その上流域は、標高約200mの平坦な盆地が形成されているためか弥生時代には稲作が行われるなど歴史は古く、古墳等数多く存在しています。また、肱川は農業用水の源となっているとともに、豊かな自然空間（田園地帯）を提供してきましたが、現在では市内の中心部として開発が進み、住宅地は勿論のこと、公共施設（西予・宇和IC）や商業施設（どんぶり館）が河川沿いに設置されてきています。

その一方、当地域の河川改修は昭和36年度から着手していますが、未改修及び片岸しか施工されていない区間等があり、近年では平成11年に床下浸水等の被害が発生しています。そのため、都市機能的土地利用が高まってきた当地域においては、洪水対策が大きな課題となっています。

そこで、県におかれましては、「肱川水系（上流圏域）の河川整備計画」の策定をいただき、支川であります岩瀬川との合流域を主眼に、浸水被害箇所の早期解消にご努力をいただいているところであります。

今後、当市といたしましても、市の玄関口（高速道路利用）であります当地域の土地の有効利用に努め、高速交通網の整備も視野に入れた、さらなる都市基盤整備を進めてまいりたいと思います。

西予宇和IC付近



どんぶり館周辺

野村ダム祭り